

INTERVIEW

外国人材を受け入れている農家へのインタビュー



令和7年10月

NO. 1

ベジエイト株式会社

経営概要

代表者：代表取締役社長 重富 裕貴 氏

所在地：宮崎県都城市

従業員：役員4名（正社員32名、パート56名）

うち外国人材15名（男性9名（技能実習9名）

女性6名（特定技能1名、技能実習5名））

※令和7年10月現在

栽培品目：甘藷、牛蒡、大根、水稻、加工用ほうれん草

計134ha、農作業請負20ha



VEGEATE

現会長の重富 保氏が平成22年にJAを定年退職を機に営農を開始し、平成24年に会社設立、平成28年に現在のベジエイト株式会社に社名変更。宮崎県都城市を拠点とした農業生産法人です。

農作物の生産、加工、集荷、販売が主事業で、自社農場以外にコントラクター（農作業請負）で地域のサポートも行っています。平成29年に高城選果場、令和4年に農産物集出荷貯蔵施設（甘藷貯蔵庫）を建設し、年間3000トン以上の甘藷を出荷。令和4年にはGLOBAL G.A.P認証を取得しています。ベジエイト株式会社は農業の持つ無限の価値を最大限に引き出し地域農業の発展に寄与する「総合農社」を目指しています。

※社名は【ベジタブル×クリエイト】から。

外国人材の受け入れについて

＞ 受入れのきっかけを教えて下さい。

現会長がJA時代に「外国人技能実習生受け入れ生産者連絡会」の立ち上げを行ったこともあり、外国人材の雇用に関して理解があったため、2016年（平成28年）から技能実習生の受け入れをしています。

よりよい人材確保と、長期的な人材育成および高度な技術指導にも取り組みたいと考えていたところ、宮崎県の「農業人材育成プロジェクト」を知り、受け入れを希望しました。

2024年2月から「宮崎クラス」※の研修を終了した1期生9名を、2025年7月から2期生3名のベトナム人を技能実習生として受け入れています。現在ベトナム人13名、インドネシア人2名が作業に従事しています。

※宮崎県が2022年にベトナム国立農業大学と農業人材の確保・育成に関する連携意を締結しており、その取り組みの1つとして「農業人材開発プロジェクト」を実施。日本語教育に加え宮崎の農業、文化や方言等を事前学習する「宮崎クラス」を設置。

＞ 外国人材の業務内容や受け入れの効果はどうですか。

圃場の露地栽培の作業中心で、甘藷、水稻、大根、ごぼう、ほうれん草などさまざまな作物を扱っています。また選果場での収穫物の選別や洗浄も行っています。屋内の作業場があるため、雨天でも作業ができる利点もあり、通年の雇用ができます。作業は実習生それぞれの適性をみて割り振っています。

日本語の理解度が上がると、任される作業も増えるので、彼らのモチベーションも上っているようです。

外国人材は日本語の理解の壁はありますが、とにかく仕事をきちんとすると、また突発の休暇取得は少ないため、作業現場で堅実に頼りになる人材です。



選果場での作業

受け入れ農家としての取組(教育・研修・環境整備)

➤ 生活に関する支援や教育などの取組を教えてください。

男性の実習生は公営住宅を外国人労働者向けに活用する宮崎県の取組により、当初は県営住宅に入居していたのですが、事務所までの距離があり、職員の送迎に伴う人件費や燃料費や車両の維持費用がかかることがネックとなっていました。県や市に相談して、今は自転車で通える距離の市営住宅に、3DKに2人でルームシェアする形で入居しています。また夫婦の実習生もいて戸建ての借家に入居しています。女性の実習生は本社の敷地内の寮に住んでいます。

受け入れ時に部屋の備品やWi-Fi環境を整えています。ベトナムで「宮崎クラス」の授業をうけていること、また日本入国後に管理団体のもとで1か月ほど、ゴミ出しや交通ルールなど含めて研修をうけているので、来県時は特段の問題はなかったです。

都城市が公民館で行っている日本語講座に当該地域の他社の技能実習生とともに参加しています。昨年の成果発表会では自分たちでベトナム紹介講座を行って、地域の方と交流を深めました。また公民館や地域の清掃活動や餅つき、グランドゴルフや子ども相撲にも参加するなど地域交流を積極的に行っていて、地域のかたとなじんぐてくれています。

昨年は技能実習の試験対策として、社員手作りの単語カードなどの教材を使用して、作業終了後の16時から実習生みんなで勉強会を行っていました。努力の結果、全員が合格したので非常にうれしかったです。



社員旅行



国際理解講座



もちつき体験



勉強会

今後の事業展開

➤ 今後の展開や取組について教えて下さい。

今いる技能実習生の中には、意欲的で、特定技能の試験も合格してベジエイト(株)で働きたいといってくれる子もいます。彼らと今後も一緒に働いていけたらと思います。

また、帰国したあとは、当社で学んだことを母国の農業の発展に活かしてもらえるとうれしいです。



AINさん

ZUNさん

圃場で作業中のAINさんとZUNさんに
インタビューしました。

- ・日本に来る前は、AINさんは大学生でZUNさんは兵役についていたとのことでした。
- ・お二人とも生活も仕事も楽しいとのことで、何か困ったことはありますか?との問い合わせ、たのしいことばかりで大変なことは今までありませんとのこと。



作業の合間の休憩